観光地域づくり法人形成･確立計画

記入日：令和 7 年 7 月 30 日

１．観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを〇で囲むこと	広域連携ＤＭＯ･地域連携ＤＭＯ･(地域ＤＭＯ)	
観光地域づくり法人の名称	（一社）伊豆市産業振興協議会	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 静岡県伊豆市	
所在地	静岡県伊豆市修善寺 838－１	
設立時期	平成 29 年４月３日	
事業年度	４月１日から翌年３月 31 日までの１年間	
職員数	令和 7 年 4 月 1 日～	
	7 人【常勤 7 人（正職員 4 人・出向 3 人・兼務 0 人)、非常勤 0 人】	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 勝呂　克彦 （出身組織名） 一般社団法人伊豆市観光協会	設立当初から会長を務めていた菊地豊伊豆市長に代わり、令和 6 年 6 月 24 日より民間出身者として、一般社団法人伊豆市観光協会の会長を務める 勝呂克彦が会長に就任した。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者（ＣＭＯ：チーフ・マーケティング・オフィサー ※必ず記入すること	（氏名） 木村　佳穂「専従」 正職員 （出身組織名） 一般社団法人伊豆の国市観光協会	令和 6 年 2 月に一般社団法人伊豆市産業振興協議会にてプロパー採用、前職で約 10 年程、イベント企画・運営、広報業務、ICT 活用、戦略立案、情報発信業務を担当した実績もあり、令和 6 年 4 月より CMO に就任、プロモーションも担当する。
財務責任者（ＣＦＯ：チーフ・フィナンシャル・オフィサー） ※必ず記入すること	（氏名） 村上　昇男 （出身組織名）一般社団法人伊豆市観光協会	令和 7 年 4 月より一般社団法人伊豆市産業振興協議会の事務局長として専従、一般社団法人伊豆市観光協会の事務局長も兼任する。「リーダーシップ系統の能力」「マネージメント系統の能力」に加え「ファイナンス系統の能力」も併せ持つ。
各部門（例：プロモーション）の責任者（専門人材） ※各部門責任者のうち専従の者については、氏名の右横に「専従」と記入すること	（氏名） 浅田　克彦「専従」 （出身組織名） 伊豆市役所	令和 3 年 4 月 1 日より伊豆市役所から出向 各種データの収集・分析、観光戦略・事業の提案、観光戦略の修正・改善、計画の見直し、協議会の総会・理事会への報告を担当していた実績を元に、令和 6 年 4 月より戦略の策定及び、総務・運営管理の責任者として事務局次長に就任した。

様式１

<table>
<tr><td>各部門（例：旅行商品の造成･販売）の責任者（専門人材）</td><td>（氏名）
渡邉　秀樹「専従」
（出身組織名）
伊豆箱根鉄道（株）</td><td>令和７年４月１日より伊豆箱根鉄道（株）から出向
主に総務、人事、監査、内部統制、経理など管理部門を歴任。事業部門を陰から支える業務に従事、事業全般管理、外部機関との連携、コンテンツ造成・商品開発の責任者として事務局次長に就任した。</td></tr>
<tr><td>連携する地方公共団体の担当部署名及び役割</td><td colspan="2">静岡県伊豆市　産業部観光商工課（観光振興・産業振興）
産業部農林水産課（農林水産業振興）
総合政策部地域づくり課（地域振興）</td></tr>
<tr><td>連携する事業者名及び役割</td><td colspan="2">（一社）伊豆市観光協会（観光事業者、４支部との連絡調整）
伊豆市商工会（市内事業者との連絡調整）
富士伊豆農業協同組合（市内農業従事者との連絡調整）</td></tr>
<tr><td>官民･産業間･地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</td><td colspan="2">（概要）観光資源の関係者、宿泊事業者、交通事業者、商工会、行政が参画し、本法人が事務局を務める協議会を設置
【該当する登録要件】①②
①取締役、理事など観光地域づくり法人の意思決定に関与できる立場で行政、文化、スポーツ、農林漁業、交通等の幅広い分野の関係団体の代表者が参画
②観光地域づくり法人が主導して行政や関係団体をメンバーとするワーキンググループなどの委員会等を設置
・（一社）伊豆市産業振興協議会内には、関係団体の会長及び副会長が参加する総会及び理事会の年数回開催、その下に構成団体の実務担当者で組織する運営委員会を年数回開催し合意形成を図る。
・正会員及び賛助会員で構成する全体会議を年数回開催し、当協議会の事業について報告を行い情報提供と事業ごとの協力を依頼する。</td></tr>
<tr><td>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</td><td colspan="2">・伊豆市役所発行の広報誌に、定期的な記事掲載を実施。</td></tr>
<tr><td>法人のこれまでの活動実績</td><td colspan="2">【活動の概要】
<table>
<tr><th>事業</th><th>実施概要</th></tr>
<tr><td>情報発信・プロモーション</td><td>① SNS 等による情報発信強化
Ⅰ. Instagram へ月 12 回投稿（株式会社トリドリ）
Ⅱ. 伊豆市観光情報サイトリニューアル
② 首都圏向けプロモーション
プレスツアーの実施　2 日間　参加 5 社 6 名
実施後の掲載媒体実績　20 媒体以上に掲載
③ 伊豆市ブランド「AMAGIFT（アマギフト）」の認知度向上と販売拡大
Ⅰ. 催事出展ｻﾎﾟｰﾄ　9 箇所/延べ 34 日間　1,623,210 円
Ⅱ. 催事紹介ｻﾎﾟｰﾄ　5 箇所/延べ 14 日間
Ⅲ. ｷﾞﾌﾄｾｯﾄ販売　511,600 円
Ⅳ. 販促活動　SNS（Instagram/X 開設）32 投稿</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

様式１

	受入環境の整備	・観光庁補助事業「地域一体となった観光地の再生・観光サービスの高付加価値化事業」 ①観光拠点となる地域全体の魅力及び収益力の向上を図る ②観光地の宿泊施設を中心とした地域一体となった面的な観光地再生・高付加価値化を図る
	観光資源の磨き上げ	・令和４年度伊豆市版ＤＭＯ事業 ４地区ごと部会を各３回計 12 回実施。年度途中から、観光ＤＸ化事業に着手し、ＷＥＢ上で販売する 11 商品と５つの商品を静岡県観光商品シートに掲載した。

【定量的な評価】

項　目	単位	R2	R3	R4	R5	R6
観光レクリエーション客数	千人	1,638	1,805	2,558	2,705	2,789
宿泊客数	千人	434	574	733	762	768
観光交流客数	千人	2,072	2,379	3,291	3,467	3,557
外国人観光レクリエーション客数	人	16,130	312	1,144	8,484	13,538
外国人宿泊客数	人	4,849	268	3,698	25,268	41,809
外国人観光交流客数	人	20,979	580	4,842	33,752	55,347
1 人当たりの観光消費額	円	17,394	17,597	19,610	39,364	47,788

実施体制
※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。

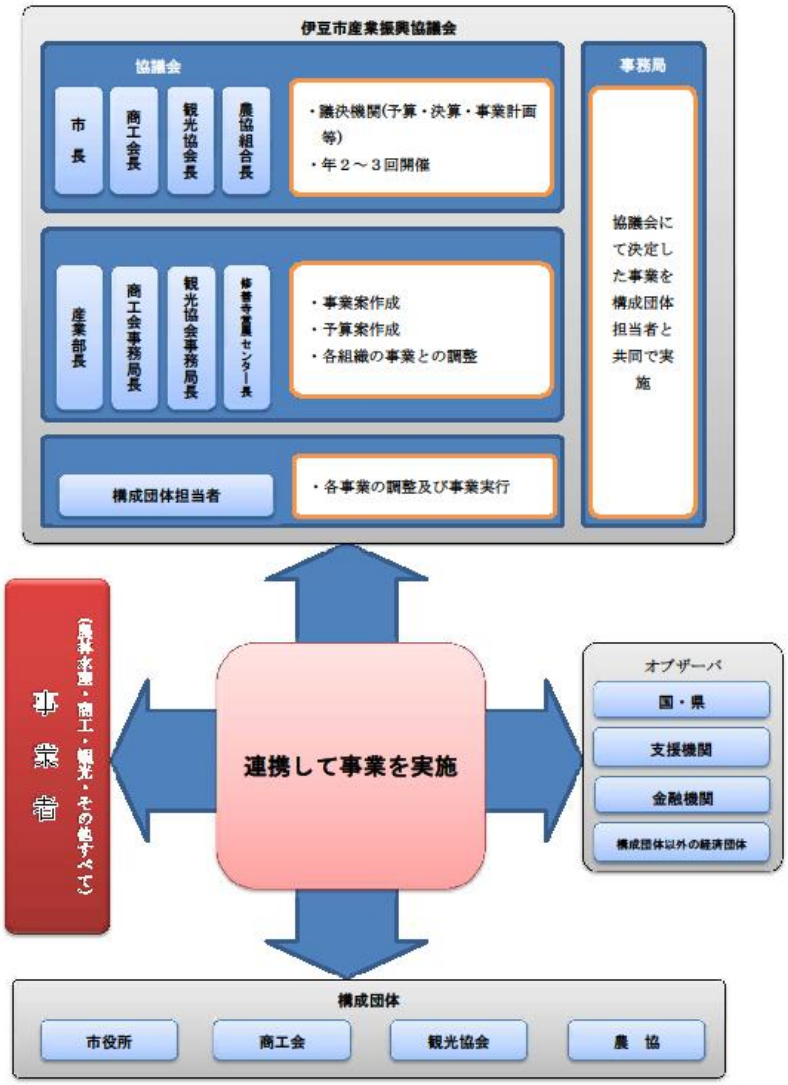
【実施体制の概要】

（一社）伊豆市産業振興協議会は、伊豆市役所、（一社）伊豆市観光協会、伊豆市商工会、富士伊豆農業協同組合が構成団体となった団体である。（一社）伊豆市産業振興協議会内に、DMO 責任者、データ分析担当者、プロモーション担当者、旅行商品の造成･販売の責任者を置き、事務局長、市役所及び伊豆箱根鉄道（株）、からの出向者 8 人体制により戦略的な誘客活動を行っていたが R7 年度より新たな体制として、一般社団法人伊豆市観光協会より招聘していた事務局長をプロパースタッフとし、更に 1 名市役所へ帰任したスタッフの補充としてプロパースタッフを採用、CFO、CMO、戦略の策定責任者を置き、市役所から 2 名、伊豆箱根鉄道（株）から 1 名の出向者を含め、プロパー4 名、出向者 3 名、計 7 名の体制にて戦略的な情報発信・商品開発・誘客宣伝活動を行う。また、事業実施については、構成団体及び賛助会員 17 社及び地域の方々と協力していく。

【実施体制図】

様式１

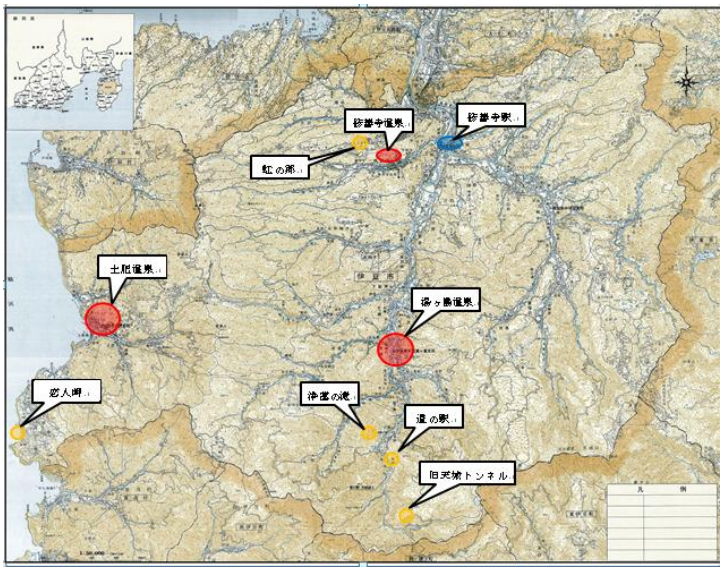
伊豆市産業振興協議会組織図　（参考資料１）



様式１

２．観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

平成 27 年 1 月 22 日より、伊豆市の商工会、観光協会、JA、伊豆市役所産業部と伊豆市内の事業者の産業力を強化するための団体、伊豆市産業振興協議会設立に向け協議を続けてきた。平成 29 年 4 月 3 日から一般社団法人となり、戦略的な誘客活動を行ってきた。今後、伊豆市の主産業である観光業を主体として産業振興を行い、日本版 DMO の実施主体とするため、伊豆市内を区域設定とするのが適切である。

【観光客の実態等】

項　目	単位	R２	R３	R４	R５	R６
観光レクリエーション客数	千人	1,638	1,805	2,558	2,705	2,789
宿泊客数	千人	434	574	733	762	768
観光交流客数	千人	2,072	2,379	3,291	3,467	3,557
外国人観光レクリエーション客数	人	16,130	312	1,144	8,484	13,538
外国人宿泊客数	人	4,849	268	3,698	25,268	41,809
外国人観光交流客数	人	20,979	580	4,842	33,752	55,347
1 人当たりの観光消費額	円	17,394	17,597	19,610	39,364	47,788

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

※観光資源の活用方法についても記入すること。

観光施設：修善寺虹の郷、日本サイクルスポーツセンター、土肥金山、中伊豆ワイナリーなど
商業施設：カインズホーム、マックスバリュ、コメリなど
自然：天城山、八丁池、伊豆山稜線歩道、皮子平、達磨山、コビサワラ原生林など
文化：天城山隧道、伊豆半島ジオパームミュージアム・ジオリア、など
スポーツ：天城ふるさと広場、天城ドーム、狩野ドーム、伊豆ベロドロームなど
イベント：土肥サマーフェスティバル、修善寺梅林梅まつり、ホタル観賞など

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】
修善寺地区：29 施設、中伊豆地区：19 施設、天城地区：26 施設、土肥地区：55 施設

【利便性：区域までの交通、域内交通】
電車：東京駅⇒三島駅（新幹線）60 分、三島駅⇒修善寺駅　35 分
自動車：東名高速道路　東京ＩＣ⇒沼津ＩＣ又は長泉沼津ＩＣ　60 分、伊豆縦貫道　沼津ＩＣ又は長泉東名ＩＣ⇒修善寺ＩＣ　30 分

【外国人観光客への対応】
伊豆市観光案内所　ＪＮＴＯ認定外国人観光案内所　カテゴリー２
多言語観光案内看板設置、修善寺温泉内　Ｗｉ－Ｆｉ基地局　17 カ所設置

３．各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
観光交流客数	誘客施策の基礎資料とするため	静岡県観光交流の動向（静岡県）
観光レクリエーション客数	誘客施策の基礎資料とするため	静岡県観光交流の動向（静岡県）
宿泊客数	誘客施策の基礎資料とするため	静岡県観光交流の動向（静岡県）
外国人観光交流客数	誘客施策の基礎資料とするため	伊豆市外国人観光客受入状況調査（伊豆市）
外国人交流客数	誘客施策の基礎資料とするため	伊豆市外国人観光客受入状況調査（伊豆市）
外国人宿泊客数	誘客施策の基礎資料とするため	伊豆市外国人観光客受入状況調査（伊豆市）
流動実態	発地観光客を把握し、ターゲットの設定、次年度の事業計画作成の基礎資料とするため	位置情報を活用した伊豆市来訪者調査（伊豆市）
満足度	伊豆市に訪れる観光に関する満足度を把握し、強み・弱みを把握し、次年度の事業計画作成の基礎資料とするため	位置情報を活用した伊豆市来訪者調査（伊豆市）
旅行消費額	伊豆市に訪れる観光客の旅行消費額を把握し、次年度の事業計画作成の基礎とする	静岡県観光交流の動向（静岡県） 入込統計調査（伊豆市）
リピーター率	伊豆市に訪れる観光客のリピーター率を把握し、次年度の事業計画作成の基礎とする	位置情報を活用した伊豆市来訪者調査（伊豆市）
WEB サイトのアクセス状況	伊豆市に対する関心度や事業効果等を把握するため	グーグル・アナリティクスを活用して実施（伊豆市）

様式１

４．戦略

（１）地域における観光を取り巻く背景

伊豆市では、人口減少及び少子高齢化が進んでおり、就業者数の最も多い農林水産業においても高齢化等の影響で就業者や事業所が減少傾向にある。また、近年では宿泊施設や介護施設を始め、さまざまな業種で人手不足が顕著である。こうした地域の課題に対し、地域自ら魅力ある地域づくりを進め観光客を誘客し、リピーターとするために、観光関係事業者以外の地域住民をも巻き込んだ仕組みが必要となる。このために、(一社)伊豆市産業振興協議会が本来の観光地域づくり法人となり、地域と共に魅力ある地域づくりを行う仕組みづくりを作り上げる。

これらの活動を行うことにより、新たな雇用の創出や担い手不足の解消、交流人口・関係人口の増加につなげることとしている。

（２）地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	**強み（Strengths）** ・観光資源（海、山、川／修善寺／天城峠／紅葉等） ・観光施設 ・特産品（わさび、椎茸等） ・首都圏からの近さ ・温暖な気候 ・スポーツ施設 ・伊豆というネームバリュー ・歴史、文学（1,200 年の歴史、文人墨客が多く滞在） ・魅力的な宿泊施設 ・温泉 ・コンパクトにまとまった温泉街（修善寺温泉） ・風景（富士山、夕日、棚田、原風景） ・宿泊施設 ・食事	**弱み（Weaknesses）** ・近隣市町との差別化 ・伊豆市の認知（伊豆、伊豆半島としての認知） ・合併前の旧４町エリアの連携 ・観光施設同士の連携 ・人手不足 ・交通インフラ ・観光資源の活用 ・観光事業資金不足 ・外国人観光客受入体制（キャッシュレス化対応の遅れ） ・後継者不足による店舗減少、空き店舗増加 ・土産物 ・就農人口の減、高齢化 ・人材不足 ・新規事業者不足
外部環境	**機会（Opportunity）** ・東京 2020 大会開催地（伊豆市内） ・静岡県水わさびの伝統栽培の世界農業遺産登録（伊豆市内） ・ユネスコによる世界ジオパーク認定 ・スポーツ合宿 ・外国人観光客（中国、台湾等） ・リピーター率の高さ ・新たな自動車道の開通（新東名、圏央道、中部横断道、中央自動車道と新東名との接続 ・富士山、韮山反射炉の世界遺産	**脅威（Threat）** ・新型コロナウイルス等の感染症 ・異常気象、地震等の災害 ・中国、韓国等との関係悪化 ・他の観光地との競争激化 ・旅行の目的の多様化 ・自然災害 ・人口減少（少子高齢化） ・公共交通機関のアクセスの悪さ ・交通渋滞

※上記に加え、ＰＥＳＴ分析等の他のマーケティング分析手法を用いて分析を行っている場合は、その内容を記入（様式自由）。

（３）ターゲット

〇第１ターゲット層
子育てファミリー層（子どもは中学生まで）

〇選定の理由
　若い世代であるがゆえに、リピーターとなれば長い年月及びその後夫婦、子どもが家族を持った際の再来が見込まれるため。また、一昨年度のじゃらんリサーチセンターの報告で、「子育てファミリー層」の占める割合が最も多かった。
〇取組方針
若い家族に訴求できるWebサイトを使い、ファミリーが魅力を感じられる伊豆市をイメージできるプロモーションを行っていく。

〇第２ターゲット層
首都圏在住の熟年層のリピーター

　令和３年度に当協議会が行った観光アンケート調査結果と静岡県が実施した調査から、当該ターゲット層の来訪は定量性がありリピーターが多いため、今後とも市場としても安定的な傾向にあるため。
〇取組方針
　ターゲットへアプローチできるプロモーション活動と旅行商品造成と販売を行う。観光の流動実態と満足度調査による再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。

〇第３ターゲット層
台湾他アジア圏及び、欧米・豪の少人数旅行者

〇選定の理由
　新型コロナウイルス感染拡大に伴い大打撃を受けた。大きな＋αのターゲット層と考えられるが、インバウンドに依存しすぎる怖さを知ったため、第３ターゲットとした。
　とは言え、過去の実績より台湾、中国、香港、韓国からの旅行客が伊豆市の外国人観光交流客数の91%をしめており、特に台湾の方はリピーターが多いためターゲットに設定した。また、伊豆市内は安価で大人数を受け入れ可能な宿泊施設が少ないため、経済成長著しい東南アジア諸国のFITが市場としても今後拡大傾向にあるためターゲットに設定した。
　欧米は日本文化への興味が強く、長期滞在型が多いためターゲットとする。
〇取組方針
　広域連携機関（国（JNTO)、県（TSJ)、東部（コンベンションビューロー)、伊豆半島（美伊豆））と伊豆市インバウンド推進プロジェクトチーム（IIP）が連携し、現地の旅行会社へのプロモーション・ファムトリップの受け入れなどを行う。
　欧米・豪については、静岡ツーリズムビューロー（TSJ）とともに、ファムトリップを行う。

様式１

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	地域住民が地元に誇りを持つまち、伊豆市 ＜めざすまちのテーマ＞ 自然・歴史・文化が薫る 誇りと活力に満ちた「伊豆半島の新機軸」・伊豆市
②コンセプトの考え方	旅行形態やニーズが変化している現在でも、旧態依然の旅行会社に依存した送客やプロモーション活動を行っていることがあげられる。この旧態依然の依存した誘客から脱却し、地域自ら魅力ある地域づくりを進め観光客を誘客し、リピーターとするために、観光関係事業者以外の地域住民をも巻き込んだ仕組みが必要となる。 このために、(一社)伊豆市産業振興協議会が本来の観光地域づくり法人となり、地域と共に魅力ある地域づくりを行う仕組みづくりを作り上げる。 具体的には、伊豆市の強みである「宿・温泉・食事」と地域資源（観光コンテンツ）を融合した商品を造成し、「大変満足」を獲得しリピーター化（ファンづくり）を目指す。

様式１

５．関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	運営委員会（正会員及び 17 団体の賛助会員の実務者レベル）、全体会議（正会員及び 17 団体の賛助会員）、モニターツアー部会（観光協会、宿泊事業者）、ガイド連絡会（市内７団体のガイドクラブ、観光協会）
	当協議会の構成員である伊豆市役所、伊豆市観光協会、伊豆市商工会、富士伊豆農業協同組合と協議会事務局の会議「運営委員会」を隔月１回（年 6 回）開催し、情報共有及び課題解決を図っている。 正会員及び 17 団体の賛助会員で構成する「全体会議」を年１回開催し、広く情報共有及び意見徴収を図っている。その他、都度情報共有あり。 全体会を１回開催し、伊豆市としての共有を図った。 市内ガイド組織の取り纏めを行う『伊豆市ガイドクラブ連絡会』を立ち上げ、４回にわたる連絡会で課題の共有や目指すべき方向性等について協議した。 令和 6 年より、各部会を発展的に解消・集約し、実務者レベルで組織する、新たな運営委員会を年数回開催し、情報共有、課題抽出、協議会の方向性及び戦略の立案を諮っていく。
観光客に提供するサービスについて、維持･向上・評価する仕組みや体制の構築	当協議会が実施する事業の維持・向上・評価については、事業ごとに行うアンケート調査を基に、事業の満足度等を把握し、事業の品質維持・向上を図るとともに、会員全体で情報共有をし、運営委員会で事業内容の評価、見直しを行い、総会、理事会、全体会議等で報告し、次年度事業計画を立て実施していく。 伊豆市全体のサービスについては、静岡県が実施する「静岡県における観光の流動実態と満足度調査」の結果を基に、サービスの維持・向上・評価を当協議会が分析し、当協議会の会員である観光協会、旅館組合、観光関係事業者等と共有し、個々の事業者でできること、伊豆市全体として行うことを決定し、伊豆市全体のサービス維持・向上を図る。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信･プロモーション	伊豆市の主要マーケットである首都圏向けの情報発信を首都圏の主要駅でのプロモーションを当協議会が伊豆市観光協会と共同で実施している。 また、ターゲット層への情報発信を当協議会が一元的な窓口としてデジタルメディアを使ってプロモーションを実施している。 誘客プロモーションとして当協議会が窓口となり、コンテンツ造成する中で、旅行者向けの商品は静岡県観光商品シートへ掲載し、全国 250 社余りの旅行社へプロモーション・営業活動を実施している。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

様式１

６．ＫＰＩ（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後３年間における明確な数値目標を記入すること。
※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去３年間の実績も記入すること。

（１）必須ＫＰＩ

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
●旅行消費額（百万円）	目標	30,000	71,877	85,399	29,626	33,325	37,522
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	67,277	83,033	26,360			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●延べ宿泊者数（千人）	目標	824	810	813	782	796	810
		(1)	(50)	(51)	(52)	(53)	(54)
	実績	733	762	768			
		(37)	(25)	(42)			
●来訪者満足度（%）	目標	98.0	98.0	98.0	94.0	94.0	94.0
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	98.7	93.3	85.6			
		（ ）	（ ）	（ ）			
●リピーター率（%）	目標	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0	98.0
		（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）	（ ）
	実績	99.1	98.2	96.2			
		（ ）	（ ）	（ ）			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

KPI の設定にあたっては、**伊豆市まち・ひと・しごと創生 第２期人口ビジョン及び総合戦略**（以下「総合戦略」という。）において設定された成果目標に沿った KPI としてきた。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

R4 年度実績より、実態に即していないとして算出方法が変更されたが、R6 年度実績を計算したところ伊豆市の GDP を超えてしまう数値となった為、明らかに乖離があると判断し、『静岡県観光交流の動向』を用いて再計算した。

●延べ宿泊者数及び単価

延べ宿泊者数については『入込統計調査』を元にしているが、単価は静岡県の数値と独自アンケート調査結果と乖離があった為、R7 年度、R8 年度の 2 年間を掛けて『観光振興事業費補助金（全国の観光地・観光産業における観光 DX 推進事業）「観光地の販路拡大・マーケティング強化」の採択を受け、宿泊データ分析システムの構築を行っていき、目指す指標に信憑性を持たせられる取組を進めている。

●来訪者満足度
　来訪者満足度は、R4 迄は、静岡県における観光の流動実態と満足度調査（静岡県）を元にしていたが、R5 より、独自調査（位置情報を活用した伊豆市来訪者調査）により算出している。
●リピーター率
　リピーター率も、R4 迄は、静岡県における観光の流動実態と満足度調査（静岡県）を元にしていたが、R5 より、独自調査（位置情報を活用した伊豆市来訪者調査）により算出している。

（２）その他の目標

指標項目		2022（Ｒ４）年度	2023（Ｒ５）年度	2024（Ｒ６）年度	2025（Ｒ７）年度	2026（Ｒ８）年度	2027（Ｒ９）年度
● WEB サイトのアクセス数（PV／万回）	目標	―	211	212	156	156	156
		(―)	(―)	(―)	(―)	(―)	(―)
	実績	211	169	142			
		(　)	(　)	(　)			
●住民満足度（%）	目標				86.6	86.6	86.6
		(　)	(　)	(　)	(　)	(　)	(　)
	実績		86.6	80.5			
		(　)	(　)	(　)			
●年間観光交流客数（千人）	目標	3,550	3,400	3,570	3,570	3,570	3,570
		(10)	(40)	(51)	(52)	(53)	(54)
	実績	3,291	3,467	3,557			
		(5)	(34)	(55)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値
※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】
　昭和 63 年から宿泊客数・観光レクリエーション客数を集計しており、ピーク時まで戻すことが大きな目標とはなるが、観光地間の競争激化や情報通信網の発達、コロナ等の感染症や世界情勢などを鑑み、集計データや市の計画、世情などを反映させた目標設定とした。

【設定にあたっての考え方】
●住民満足度
　R5 年度より「観光に関する住民満足度調査事業レポート」を元に算出している。
●年間観光交流客数
　R6 年度は、コロナ前（平成 30 年）の実績まで回復した為、目標はその数値の維持継続を設定した。
●WEB サイトのアクセス数
　スマートフォン等の普及により、情報が個人の手元で取得でき、また発信できる時代である。時代に即した対応として、今まで以上に弊社が運営する伊豆市観光情報特設サイトの PV 数を伸ばすことを、プロモーションの一環と捉え、令和４年度の実績をもとに新規設定した。

様式１

７．活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後３年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。
※現に活動している法人にあっては、過去３年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	**88,011,567（円）**	【会費】2,825,000 円 【事業受託金】33,209,000 円 【市・県の補助金】14,326,024 円 【事業交付金】9,881,000 円 【販売収入】19,872,000 円 【その他】2,757,782 円 【繰越収支差額】5,140,761 円
2023（Ｒ５） 年度	**80,894,610（円）**	【会費】2,850,000 円 【事業受託金】22,022,000 円 【市・県の補助金】15,726,565 円 【国補助金】30,000,000 円 【その他】3,252,404 円 【繰越収支差額】7,043,641 円
2024（Ｒ６） 年度	**78,839,000（円）**	【会費】2,850,000 円 【事業受託金】39,853,000 円 【市・県の補助金】21,104,000 円 【その他】8,636,507 円 【繰越収支差額】6,395,493 円
2025（Ｒ７） 年度	**89,571,000（円）**	【会費】2,850,000 円 【事業受託金】8,208,000 円 【市・県の補助金】40,186,000 円 【その他】25,997,000 円 【繰越収支差額】77,241,000 円
2025（Ｒ８） 年度	**93,303,000（円）**	【会費】2,850,000 円 【事業受託金】39,853,000 円 【市・県の補助金】34,836,000 円 【その他】9,368,000 円 【繰越収支差額】6,396,000 円
2027（Ｒ９） 年度	**93,303,000（円）**	【会費】2,850,000 円 【事業受託金】39,853,000 円 【市・県の補助金】34,836,000 円 【その他】9,368,000 円 【繰越収支差額】6,396,000 円

様式１

（２）支出

年（年度）	総支出	内訳（具体的に記入すること）
2022（Ｒ４） 年度	88,011,567 （円）	【事業費】58,831,053 円 【事務費】22,136,873 円 【予備費】　　0 円 【繰越収支差額】7,043,641 円 ※コロナ対策交付金による事業を受託したため、事業費増となる
2023（Ｒ５） 年度	80,894,610（円）	【事業費】49,527,793 円 【事務費】24,971,324 円 【予備費】　　0 円 【繰越収支差額】6,395,493 円
2024（Ｒ６） 年度	78,839,000（円）	【事業費】44,880,000 円（注 1） 【事務費】28,115,000 円（注 2） 【予備費】 5,844,000 円 【繰越収支差額】　0 円 注 1）観光庁補助事業（観光再事業；30,000,000 円）が無くなった為、事業費減となる。 注 2）ﾌﾟﾛﾊﾟｰｽﾀｯﾌへ切替えの為、事務費増。
2025（Ｒ７） 年度	89,571,000（円）	【事業費】24,273,000 円 【事務費】39,632,000 円（注 3） 【予備費】 6,336,000 円 【事業積立金】7,000,000 円 【繰越収支差額】0 円 注 3）ﾌﾟﾛﾊﾟｰｽﾀｯﾌへ切替えの為、事務費増予定。
2025（Ｒ８） 年度	93,303,000（円）	【事業費】37,880,000 円 【事務費】42,579,000 円（注 4） 【予備費】 5,844,000 円 【事業積立金】7,000,000 円 【繰越収支差額】　0 円 注 4）ﾌﾟﾛﾊﾟｰｽﾀｯﾌへ切替えの為、事務費増予定。
2027（Ｒ９） 年度	93,303,000（円）	【事業費】37,880,000 円 【事務費】42,579,000 円（注 5） 【予備費】 5,844,000 円 【事業積立金】7,000,000 円 【繰越収支差額】　0 円 注 5）ﾌﾟﾛﾊﾟｰｽﾀｯﾌへ切替えの為、事務費増予定。

（３）自律的･継続的な活動に向けた運営資金確保の取組･方針

・法定外目的税（宿泊税等）導入の為の「伊豆市観光推進基本計画」策定（R7 年度）
・賛助会員の拡大を図り会費収入の増加
・国、県等の補助金の活用
・収益事業の実施（観光ＤＸ化事業によるオンライン販売）

８．観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

伊豆市は、（一社）伊豆市産業振興協議会を、地域におけるかじ取り役として地域 DMO として登録したいので（一社）伊豆市産業振興協議会とともに申請します。

９．マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携ＤＭＯ（県単位以外）や地域ＤＭＯと重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

【他の地域連携ＤＭＯや地域ＤＭＯとの間で、重複区域に関する連携や役割分担等について協議を行った（行っている）か】

年間複数回（不定期）の打合せを実施しており、インバウンド事業においては都度打合せを行い、役割分担をしたうえで事業を実施している。

（一社）静岡県観光協会：情報発信、プロモーション等
（一社）美しい伊豆創造センター：情報発信、プロモーション等
（一社）伊豆市産業振興協議会：現地対応
３社が役割を明確にしお互いの強みを活かした連携ができている。

【区域が重複する背景】

弊社は、伊豆半島の中央部に位置し、伊豆市単独の地域である。伊豆半島には、７市６町で構成される地域連携 DMO の（一社）美しい伊豆創造センターが存在するため、区域は重複する。そのため、役割分担を明確にし業務を遂行している。

【重複区域における、それぞれの DMO の役割分担について】

前述したとおりの役割分担で実施している。

【前述の役割分担等によって、効率的、効果的な活動の遂行が期待できるか】

特にインバウンド事業においては、単体市町（地域 DMO）で活動するより、地域連携 DMO などの広域組織がプロモーションなどを担い、市町や地域 DMO が地域の受け皿となる方が、効率的且つコスト面からも効果的と考える。

様式１

１０．記入担当者連絡先

担当者氏名	村上　昇男
担当部署名（役職）	事務局長
郵便番号	410-2416
所在地	静岡県伊豆市修善寺 838-1
電話番号（直通）	0558-72-7007
ＦＡＸ番号	0558-72-7003
Ｅ－ｍａｉｌ	info@izucity-dmo.or.jp

１１．関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県･市町村名	静岡県伊豆市
担当者氏名	梅原　雄児
担当部署名（役職）	産業部　観光商工課　主幹
郵便番号	410-2413
所在地	静岡県伊豆市小立野２４－１
電話番号（直通）	0558-72-9911
ＦＡＸ番号	0558-72-9909
Ｅ－ｍａｉｌ	kanko@city.izu.shizuoka.jp

（登録）【地域DMO】（一社）伊豆市産業振興協議会

様式２

記入日：　令和7年7月31日

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】
静岡県伊豆市
【設立時期】 平成29年４月３日
【設立経緯】
①区域に観光協会があるが、役割分担等をした上でDMO新設
【代表者】 勝呂　克彦
【マーケティング責任者（CMO）】 木村　佳穂
【財務責任者（CFO）】 村上　昇男
【職員数】 7人（常勤7人（正職員4人・出向3人、兼任0人）、非常勤0人）
【主な収入】
委託事業　40百万円（令和6年度決算）
市補助金　21百万円（令和6年度決算）
【総支出】
事業費　41百万円、一般管理費　24百万円（令和6年度決算）
【連携する主な事業者】
（一社）伊豆市観光協会、伊豆市商工会、富士伊豆農業協同組合、伊豆市

KPI（実績・目標）

※（　）内は外国人に関するもの。

項目		2022（R4）年	2023（R5）年	2024（R6）年	2024（R6）年	2025（R7）年	2026（R8）年
旅行消費額（百万円）	目標	30,000（　）	71,877（　）	85,339（　）	29,626（　）	33,325（　）	37,522（　）
	実績	67,277（　）	83,033（　）	26,360（　）	—	—	—
延べ宿泊者数（千人）	目標	824（1）	810（50）	813（51）	782（83）	796（84）	810（86）
	実績	733（3.7）	762（25）	768（　）	—	—	—
来訪者満足度（%）	目標	98.0（　）	98.0（　）	（　）	94.0（　）	94.0（　）	94.0（　）
	実績	98.7（　）	93.3（　）	85.6（　）	—	—	—
リピーター率（%）	目標	98.0（　）	98.0（　）	（　）	98.0（　）	98.0（　）	98.0（　）
	実績	99.1（　）	98.2（　）	96.2（　）	—	—	—

明楽0
明楽1
明楽2
明楽4
明楽5
明楽6
昇村8
明楽7

戦略

【主なターゲット】
子育てファミリー層（子どもは中学生まで）

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】
若い家族に訴求できるWebサイトを使い、ファミリーが魅力を感じられる伊豆市をイメージできるプロモーションを行っていく。

【観光地域づくりのコンセプト】
地域住民が地元に誇りを持つまち、伊豆市

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】
・新規コンテンツ商品の造成
・いずタビPick Up！
　コンテンツPR用記事・動画6件製作
　ポスターチラシ製作他
・コンテンツ商品化に向けたガイド養成支援
【情報発信・プロモーション】
・地域連携DMOへの情報提供。
・SNSを活用した情報発信
【受入環境整備】
・観光庁補助事業の採択を受け実施。
（弊社が取り纏め）

⑴ 静岡県観光商品シート新規掲載20商品	
【新規】R7下期～	・お守り地蔵製作体験 ・“つながる”蝶番工場見学と丁番製作体験 ・伊豆半島を形成した土で焼く「修善寺焼」小さな工房での陶芸体験 ・森を駆け抜けろ！「ShuzenjiZIP」（ジップライン滑走体験） ・日本古来の天然灰汁発酵建てで染める藍染め体験 ・伊豆わさびの郷で本物の生わさびを大満喫！～伊豆わさびの魅力に迫る～ ・本物の生わさびで「わさび漬けつくり体験」 ・自然の宝庫、大見の郷。迫力の萬城の滝を眺めながら気軽に散策コース ・中伊豆の歴史を巡る　地元ガイドによる寺院散策コース ・未経験者大歓迎！さあ釣に行こう！！～中伊豆フィッシュファーム釣体験～ ・モチーフを織りましょう～伊豆の草木染め糸、和綿糸と裂織り～ ・伊豆天城越えの途中！自然豊かな手作りキャンプ場で～石窯ピザ焼き体験～ ・伊豆天城越えの途中！自然豊かな手作りキャンプ場で～チェーンソー体験～ ・伊豆天城越えの途中！自然豊かな手作りキャンプ場で～丸太切りコースター作り体験～ ・日本で最も早咲きの桜「土肥桜」を観賞！土肥桜まつり限定の御朱印めぐり！ ・伝統的漁法「地引網」体験＆捕れた魚をバーベキュー ・観光と防災のまちづくり　全国初の観光型津波避難タワーと3つの津波避難タワーめぐり！ ・電動アシスト自転車でめぐる　土肥桜と富士山 ・黄金フェリーで金の聖地土肥へ、金運UPツアー ・ジオの恵みと名刹のまち　伊豆の小京都の風情に浸る
⑵いずタビPickUp!	動画製作 土肥ダイビング、土肥金山砂金採り、麦わら細工、人力車、 グリーンヒルしいたけ狩り、土肥レンタサイクル
⑶ガイド養成支援	ガイド勉強会3回 参加者数（10/11；15名、1/29；5名、3/24；9名） モニターツアー5回 参加者数（10/17；9名、2/21；4名、3/7；4名、3/16；中止、3/18；5名）

スライド 1

明楽0 こちら、事業報告書と形成・確立計画（様式１）では「10月24日」となっておりますので、すべての書類をどちらかに統一ください。
明楽 佳那子, 2024-12-04T01:09:31.050

昇村0 0 失礼致しました。
形成・確立計画（様式１）に統一・修正致しました。
昇男 村上, 2024-12-13T04:02:34.038

明楽1 こちら、事業報告書と形成・確立計画（様式１）では「85,399」となっておりますので、すべての書類をどちらかに統一ください。
明楽 佳那子, 2024-12-04T01:11:31.349

昇村1 0 失礼致しました。
形成・確立計画（様式１）に統一・修正致しました。
昇男 村上, 2024-12-13T03:58:13.025

明楽2 こちら、事業報告書と形成・確立計画（様式１）では「86,972」となっておりますので、すべての書類をどちらかに統一ください。
明楽 佳那子, 2024-12-04T01:12:12.204

昇村2 0 失礼致しました。
形成・確立計画（様式１）に統一・修正致しました。
昇男 村上, 2024-12-13T03:58:43.850

明楽3 こちら、事業報告書と形成・確立計画（様式１）では「88,562」となっておりますので、すべての書類をどちらかに統一ください。
明楽 佳那子, 2024-12-04T01:12:31.974

昇村3 0 失礼致しました。
形成・確立計画（様式１）に統一・修正致しました。
昇男 村上, 2024-12-13T03:58:49.101

明楽4 こちら、事業報告書と形成・確立計画（様式１）では「733」となっておりますので、すべての書類をどちらかに統一ください。
明楽 佳那子, 2024-12-04T01:13:27.305

昇村4 0 失礼致しました。
形成・確立計画（様式１）に統一・修正致しました。
昇男 村上, 2024-12-13T03:59:16.100

明楽5 こちら、事業報告書と形成・確立計画（様式１）では「2.5」となっておりますので、追記ください。
明楽 佳那子, 2024-12-04T01:14:09.835

昇村5 0 失礼致しました。
形成・確立計画（様式１）に統一・修正致しました。
昇男 村上, 2024-12-13T03:59:26.773

明楽6 こちら、事業報告書と形成・確立計画（様式１）では「98.7」となっておりますので、すべての書類をどちらかに統一ください。
明楽 佳那子, 2024-12-04T01:15:30.253

昇村6 0 失礼致しました。

形成・確立計画（様式１）に統一・修正致しました。
昇男 村上, 2024-12-13T04:00:08.625

明楽7 こちら、事業報告書と形成・確立計画（様式１）では「99.1」となっておりますので、すべての書類をどちらかに統一ください。
明楽 佳那子, 2024-12-04T01:15:56.141

昇村7 0 失礼致しました。
形成・確立計画（様式１）に統一・修正致しました。
昇男 村上, 2024-12-13T04:02:05.453

昇村8 来訪者満足度及び、リピーター率は、R8年3月に報告予定です。
昇男 村上, 2025-07-31T01:05:48.819